

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272200548		
法人名	株式会社ケイテン		
事業所名	グループホームさち 1F 花		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町栄町572		
自己評価作成日	平成25年8月31日	評価結果市町村受理日	平成25年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成25年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寝たきりにならぬ様、転倒予防体操に力を入れています。
 毎日、午前・午後と2回体操を行っています。午後からはタオルを使った体操や歌謡曲を取り入れたリハビリ体操を行いご利用者も大声で歌いながら楽しく、筋力低下の予防に努めておられます。また、日々掃除や食事作り・洗濯干し・新聞折りなど一人ひとりが役割を持ちメリハリのある生活を送ることで少しでも認知症の予防になればと頑張っています。
 職員全員が介護予防の大切さを実感しており「ピンピンコロリ」を目標にいつまでも自分の足でトイレに行かれ、自力での食事摂取が出来るよう、筋力と知力の低下予防に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保育園児などとの新しい交流を増やしなが、地域でその人らしく、今までの暮らしが継続できるように一人ひとりを尊重し、互いに笑顔で日々関わっている。島内外での「平穏死のすすめ」の研修会に参加し、事業所内で全職員が勉強会を行い共有に努め、今年度2人の看取りを家族と共に行った。「目が良くなりたい」「痛みなく暮らしたい」などの日常の利用者の思いを大切に受け止め、家族と話し合いながら利用者の身体状況の維持や改善に取り組んでいる。浴槽や足浴に木さく酢を使用し皮膚の改善に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分たちが介護される側として考えた時に、慈愛・安堵という二つの言葉の中に日々の穏やかな生活を見出した。理念がかかれた紙は事務所の目に付く所に張り出し、職員はもとより面会に来られた方にも見て頂けるようにしており、その言葉を意識しながら日々仕事に取り組んでいる。	理念を意識しながら「慈愛・安堵」の心で利用者が穏やかに生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており地域の行事も出来るだけ参加させていただいている。回覧板の巡回、溝掃除、ごきぶり団子いただいたりして交流している。	自治会活動や、ウルトラマラソン、神社参拝などの地域行事への参加や事業所の納涼祭、敬老会、保育園児とのミニ運動会、中・高生の福祉体験の受け入れなどを通して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中・高校生が福祉体験に見えたときには、認知症の方への接し方を実際に体験させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月に1回利用者の状況や行事などを報告し、ホームの活動内容・問題点などを話し合い、出席の方々のご意見を参考にしてサービスの向上に努めている。	開催の案内状には議題を載せ参加に繋げている。納涼祭、敬老会などと併せて行うこともあり多数の参加があり、委員からの意見や情報をサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治会に参加しており地域の行事にも出来るだけ参加させていただいている。また納涼祭等、ホームの行事にも民主委員をはじめ、ご近所の方にも声掛けして毎年ご参加させていただいている。	包括支援センター主催の家族交流会や地域密着型事業者の集まりに参加し情報交換をしたり、利用者に関する相談事などを行い日頃より協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束によって利用者にも与える身体的、精神的苦痛を理解しており、利用者一人ひとりに予測されるリスクを十分に把握し、人感センサーを利用するなどして拘束をしないケアを実践している。	社協主催の身体拘束の勉強会に職員は積極的に参加し、参加資料をもとに職員一人ひとりが確認し理解を深めている。言葉遣いにも配慮し、使い慣れた方言で話しかけ笑顔を引き出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会には一度だけしか参加していないが、常に念頭に置き日々の関わりの中で利用者様にとって虐待なのかどうか見極め支援している。また、職員同士で注意し合えるよう取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、研修会に参加はさせていただいたが今まで権利擁護の対象となられる方がおらず、活用の機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・申し込みに来られた際には、ホーム内の案内・実際に利用者様がおられるフロアで様子を見ていただく。また入所前には「契約書」「重要事項説明書」に基づき説明した上で双方で内容を確認し納得の上で署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者自身の思いや意見を日々の会話の中からとらえたり、個々の利用者の家族等の立場をよく理解した上で、面会時に意見や要望を聴くようにしている。ご意見は記録し改善に努めている。	面会時に利用者の日頃の様子を伝え、家族からも意見や要望を聞いている。事業所行事を通し家族同士が交流したり、包括主催の家族交流会で外部の人達と関わる機会も設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議を毎月実施し、会議の際に職員は意見や気づきを提案し、検討・話し合いを通して運営やサービスに反映させている。会議以外に全職員が業務に入る際に確認する連絡ノートでも、職員の意見や提案・気づき・会議で課題に挙げたい事等を記載し情報共有を行い速やかに検討・反映が出来るように取り組んでいる。	毎月のケア会議や連絡ノート、年一回の人事考査での面談などで意見を聞き、意見を改善に繋げている。提案を受けて洗濯物干し場の雨風を防げるようにガードの改善を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の人事考査があり、自己評価に基づいた個人の努力や課題を明確にし、意欲を引き出すようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があった時には希望者を募ったり、管理者が指名したりして出来るだけ多くの人に研修に参加してもらうよう努力している。受講後は研修の資料とレポートの回覧をするなどして研修内容の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町が開催する地域密着型事業所の集まりに出席し交流する機会を作っている。また、研修会で他の事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはこちらの方から面談に伺い、生活歴をはじめ、利用者様やご家族の気持ち・要望・思いを受け止める事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能であれば入所前にご家族と一緒に見学・面談に来て頂き家族の不安・心配事を聞いている。また、入所初期は様子がよくわかる様に些細な事も報告・相談させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の相談内容をよく聞き、本人・家族にとって何が必要なのかを一緒に話し合いその時に必要としている事を早急に支援できるようにしている。必要に応じて身内の他のサービスや機関への連携も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝は体操後の清掃からはじまり、散歩・買物・食事の準備・洗い物・洗濯物等、職員と共に生活を送り、助け合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望やご意見等を面会時に伺い、共に支え合う関係を築けるようにしている。また面会時は必ずホームでの様子、病院受診の状況をお伝えし情報の共有に努めている。遠方で訪問が難しいご家族様には電話等で利用者様の生活状況をお伝えし、安心して頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人などの来訪があれば気持ち良く面会してもらえるように配慮している。馴染みのスーパーや理美容院、墓参りなど利用者の希望に応じて同行・送迎させて頂き関係継続できるように支援している。	公園や美容院、墓参りに行ったり、神社参拝、買い物、梅、栗拾い、地元の力士の応援など、入居前からの生活を継続し、ボランティアや保育園児、パンの販売車の人などと新たな関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入所者一人ひとりの性格や生活行動を観察しながら入居者同士が関わり合えるように馴染みの関係作りに気を配っている。トラブル発生時は職員が間に入り、入居者同士の関係修復に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や入院された後も、面会に行ったり病状を尋ねる等、常に関わり家族様の相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活史・好み・習慣等から「出来る事・出来ない事」等を把握し日常の会話で気になった事や仕草も日誌に残し全職員が把握できるようにしている。また、意思表示が困難な方には家族からの情報を大切にしている。	入居前の情報や、個別ケアの時、食事の時の言葉、筆談、身振り、手振り、顔色、表情などを日誌に書きとめ、職員間で把握、検討し、家族にも相談して協力を得、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接時、ご家族に詳細に生活歴や嗜好を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状況を観察し、その人の性格や出来る事、出来ない事を見極め、現状を把握し支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の状況に応じて1ヶ月に1回ケア会議を開催しケアマネ、スタッフで意見交換をし今後どうすればその人らしい生活が送れるか話し合う時間を設けている。開催後、ケアプランに入れて支援内容や目標に添ってスタッフが意識統一し支援している。	面会時に生活面や身体状況を伝えたり、遠方の家族にはその都度電話連絡を行い希望を聞いている。毎月ケア会議前には全職員から情報を集め、その人らしい生活の支援ができるようプランに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌の中に職員の観察から生まれた気づきを書くスペースを作り、何気ない一言から本音や不満などを探る様にしている。またご家族の面会時には日々の様子をお伝えし生活に対する要望を伺ったり支援の方向性の確認をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望により行きつけの美容院へ出掛けたり、ご自分の家までドライブに行かれたり外出や外泊・ご家族がホームで一緒に泊まるなどが出来るように支援させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者や家族の状況、要望に応じて「その人らしい生活」が送れるように個々のペースに合わせた支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医師による医療を受けておられ支援経過記録の書式で利用者一人ひとりの受診状況を明記し、利用者の状態・病状等についての情報共有ができるようにしている。	入居前からのかかりつけ医を継続し、重度になった時にはいつでも相談できる協力医とも話し合いを行っている。受診時には個人ファイルを持参して対応し、結果は家族とも共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護師に連絡が取れるようになっている。常勤専従の看護師を1・2階で計3名配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時も常に面会に行き、家族様と話し合い早期退院に努めている。また退院後のケアについても細かく病院側(看護師・リハビリ療法士)から指導を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所されてすぐには終末期についての話し合いは難しいが、お互いに信頼関係が出来た場合をみてご家族との面会の際に話し合いの機会を持つようにしている。終末期の希望についてはご家族の考えが変わった時点ですぐに変更する事をお伝えし、ケアプランに希望を記入している。	状態に合わせ家族、協力医と話し合いを重ね方針の確認をしている。島内外での「平穏死のすすめ」の研修会に参加し、全職員で勉強会を行い、ケアの理解を深めている。家族が夜間泊れるように配慮し、今年2名の看取りを家族と共に行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備いつでも確認できる場所に備えているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火事などいつ起こるか分からない災害を踏まえ、年に2回災害時の具体的な避難策を昼夜を通して検討し実施しているが地域住民の参加、協力を得ながらの避難訓練はまだ実現出来ていない。	消防署立会いや近所の参加の訓練は未実施であるが、事業所内で消火訓練や職員と利用者での避難訓練を実践している。2階の利用者で歩ける人は、日々階段昇降を行い意識づけをしている。	消防署立会いで訓練や、近所の人との協力関係を築いていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時には必ず声掛けして入る事や居室や浴室入口には暖簾を掛けるなどして中が見えないよう配慮している。ご家族からの電話も居室内でお話できるように受話器をお渡ししている。	職員は日々利用者一人ひとりを尊重した言葉掛けを心がけている。利用者が触れて欲しくないことなど職員間で共有したり、排泄時の対応も他の人にわからないようにさりげなく居室に呼んで支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と共に生活していく中で日常の会話や表情の中から思いを汲み取るようにしている。コミュニケーションが取りにくい方は筆談・ジェスチャー等で対応し、理解して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大まかに決まっているが日課は決めていない。室内外でのレクなどもその時の雰囲気や天気などで決め、ドライブ・買物・散歩等その日に入所者と話し合っ決めていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張訪問美容を利用したり行きつけの理・美容室へ送迎など行っており、職員が手伝って毛染めやカット等することもある。また洋服に関してはご自分で支度できる方にはお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が交代で行っているが毎日利用者も簡単な調理や下準備をしている。配膳、後片付けにも利用者が参加している。	下ごしらえ、食器洗い、盛り付け、ボードにメニューを記入するなど利用者の役割を大切にしている。栗などを取ってきて季節を感じられる場面を作ったり、重度の人にもゆっくりと話しかけ工夫しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望も取り入れた献立で三食とも事務所で食事づくりをしている。水分摂取が難しい方にはとろみ使用やお茶をゼリーにしたり、手に痺れのある方には介助用のスプーンやフォークをご利用いただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援している。また定期的に歯科衛生士の資格を持つ職員に口腔内と入れ歯のチェックをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄やおムツを外した暮らしを心がけている。必要に応じて個別の排尿日誌を作り一人ひとりの排泄パターンを知り、失敗されてもすぐに取替え常に快適に過ごして頂けるように努力している。	排泄パターンを把握しトイレで排泄できるように支援している。紙パンツから布パンツとパットに改善した利用者が多数いる。また入院時褥瘡ができた人には紙オムツでなく布オムツの取り組みも行い改善に繋がった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者それぞれの摂取量や食事形態に合わせた食事作りをしている。またお茶ゼリー・ヨーグルト・ファイバー利用・体操等を取り入れる事で出来るだけ下剤に頼らない自然な排便習慣がつくように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を確認しながら毎日入浴される方・週に2回・3回の方・一番先がいい方等様々であるが、なるべく3回／週は入浴していただくようにしている。	毎日入浴を希望する人など利用者の思いに沿った支援をしている。入浴しない日には、足浴を行っている。浴槽や足浴時には木さく酢を使用し水虫改善に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決まっておらず日中の活動量・夜間の睡眠状態を考慮し、その人に合わせた休息をとって頂いている。日中も昼食後は全員の方に休息の声掛けを行っているが、本人の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬の説明書」「検査報告書」「受診記録」を一緒にファイルし、一目で関連付けて把握できるようにしている。また定期薬の変更・臨時薬などは申し送り張や薬のファイルに付箋を張る等して間違いのないようにしており、状態報告も申し送ってもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事・出来る事を継続される事で自身と皆の役に立っているという喜び・張り合いを感じて頂けるように支援している。また居室前にはそれぞれ屋号での表札があり常にご家族・地域との繋がりを感じて頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1回または、月1回家族の協力で外出、食事会されておられる方、本人の希望にそって出かけられるように支援している。	天気や体調に合わせ両ユニットの利用者が近所を散歩したり、肉屋さんへ食材の受け取りに行ったり、退職した職員の花畑に行くなどしている。また、買い物、墓参り、ドライブなど利用者の希望に沿った支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には本人様の意思を尊重し、お持ちいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて臨時電話や手紙のやり取りが出来るようにしており、プライバシーに配慮して電話は居室内で話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる様、食卓に花を置いたり壁に飾り付けをしたりしている。照明や温度の調節にも配慮している。	写真や利用者が作ったパズルの作品、布を縫い合わせた小物、季節の花などが飾られている。2階のベランダでは職員と共に花の苗を育て楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはゆっくりと過ごせるスペースを作っており、テレビを観たり談笑されたりとくつろげる空間作りを行っている。また一人ひとりの関係性を考慮した席の配慮をさせて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物品やご位牌等自由に持ち込み、居心地良く過ごせるようにしており今までの生活スタイルが少しでも維持できるように努めている。	同じ名字の人があり居室には屋号を表示している。写真、化粧品、花、作品などを置き、筆を育てたり、利用者の日常動作に合わせて絨毯やマットの位置を工夫し安全で寛げる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のため、浴室・廊下・トイレには手すりを設置している。椅子やテーブルは本人の座高に合わせて高さ調節している。		